



## 環境ネットワーク「虹」

未来につなぐ里地里山の生物多様性保全と担い手育成事業

助成区分

植樹

環境保全

調査・  
研究

教育・  
啓蒙

実施状況

状況①里地(田んぼ)とその  
関連事業7回300人

状況②里山での自然教室事  
業11回214人

活動の全体目標に  
対する達成度

100%

### 活動目的

今地域の里地里山は担い手の高齢化や減少により耕作放棄や荒廃化が進み生物多様性が低下している。また子どもたちは地域の自然とふれあう体験不足により想像力が低下し保全意識につながりにくい。目的は、この活動を通じて子どもたちに「自然感覚」(他の生物や環境に配慮し大切に感じる感覚)を育むことで、里地里山とその生物多様性の保全意識を高め、持続可能な社会づくりの担い手の育成に寄与することである。

### 活動内容



子どもたちが体験的にエコロジー(生態学)を学んで「自然感覚」を育む二つのプロジェクト活動とリーダーの育成を行う。(1)＜里地プロジェクト＞幼児～大人を対象の無農薬の米づくり①田植え②草取り③田んぼの生き物調査④稲刈り⑤脱穀⑥収穫米の調理⑦しめ縄づくり⑧田んぼの生き物ワークショップ等(2)＜里山プロジェクト＞小学生を対象に里山での自然体験型のスウェーデンの環境教育プログラムを基にした①自然教室や②生物調査(絶滅危惧Ⅱ類のニホンアカガエルやカスミサンショウウオ等)③アサギマダラのマーキング調査。④活動ニュースの発行や活動成果を広告書やパネル等で伝える報告会の開催。

### 成果

＜里地プロジェクト＞の参加者は述べ300人。＜里山プロジェクト＞の参加者は述べ214人と計514人が参加。田んぼの生き物調査では魚類、両生類、爬虫類、昆虫、貝類など30種類を観察、また里山でのニホンアカガエル(180卵塊)やカスミサンショウウオ(5卵塊)の産卵調査も継続的に行えた。アンケートでは「観察したり調べることで色々な生きものがあることがわかった。大切にしたい」「湿地や田んぼを守ることで色々な生きものが生きていけるとわかった」「お米を食べることは田んぼを守り、カエルなどの生き物を守ることに繋がると初めて知った」などが多かった。事業を通じて子どもたちに「自然感覚」を育む事で持続可能な社会の担い手育成に貢献できた。また活動ニュースの発行や報告会等を通じて、市民の生物多様性保全意識の向上に貢献できた。またリーダーも養成講座で新たに25人養成できた。これらを通じてSDGs4.7に位置付けられSDGs推進のためのエンジンと言われるESDの推進に寄与できたと考える。

### 工夫した点

広く子育て情報誌やチラシ等で参加を呼びかけ、出来るだけ幼児から大人まで多様な世代が参加できるよう広報した。またどのプロジェクトでも参加者が主体的に生物多様性を発見し、自分とのつながりに気づける活動となるよう工夫した。更にニュース等で活動内容や子どもたちが発見したものを知らせることで、多様な世代が地域の生物多様性に気づき、「生物多様性保全」に関心を持つことにつながるよう工夫した。

### 今後の課題

今後も地域のフィールドで継続的に活動し、地域の生物多様性を保全できるよう新たに養成したリーダーのステップアップ研修を行うこと、幼稚園や学校と連携することで幼稚園や学校での取組みも支援し、年間を通じて多くの子どもたちが体験できる仕組みを作ることである。